

## 第26話 皐月：「全力！前進！もえろ・海小」

練習のときから、晴天の日に恵まれた今年の大運動会。5月の風も涼やかで、絶好のコンディションのもとで、子どもたちは、日ごろからお世話になっている来賓、地域及び保護者のみなさまに感謝の気持ちを込めて、精一杯の演技をしました。

今年の運動会を振り返って感じたことが3つあります。

1つ目は、子どもたちなりにいろいろ工夫し、笑顔で演技ができたということです。どの学年も、動きやかけ声を自分たちで工夫したり、見ている方に直接アピールしたりする場面がありました。見ている方も予想外の動きに心を動かされたのではないかと思います。例えば、2年生の「ワンピース☆フレンズ」では、曲を口ずさみながら、楽しそうに踊っており、決め台詞の時の動きに一体感と笑顔がありました。4年生は、友だちとハイタッチをしながら、観客に向かってアピールする動きを取り入れ、会場に和やかな雰囲気を作り出してくれました。



2つ目は、二つの要素を取り入れ、頭の中を切り替える競技がありました。1年生の「玉入れポンポン」は玉入れとダンスを繰り返す行い、切り替えの妙を見ていただきました。3年生の「フラフープ号にのろう」では、仲間と協力して障害物を越えていく途中に、掛け算の問題を解くという「変化」をつけて楽しませてくれました。みんな計算を間違えてなくて安心しました。

3つ目は、友だちや保護者等の支えに気が付き、感謝する児童が多かったことです。5年生は、友だちの「GO. ハイ」の言葉を信じてスタートを切り、スピードを緩めずギリギリのタイミングでバトンをパスをしていました。まさに5年生にとっての挑戦する姿がありました。

そして6年生。低学年のときからあこがれていた「海小ソーラン」自らが踊ることに喜びを感じ、今までお世話になった方々に、成長した姿を見せようと張り切って、しかも心を込めて踊ってくれました。自らが「あこがれの存在」となった達成感を味わいました。

最後に、6年生の感想を紹介します。「今思えば、この運動会は友だちが支えてくれたから成功できた。次の6年生や1～5年生も、友だちと支え合いながら演技をしてほしい。支え合うことで、自分も安心できるし、友だちとの絆も深まって、どちらもよい思いになれる。その支え合いは、大人になってもなくてはならないことだと私は思う。」

友だちとの支え合いにより、学年のメンバーとして、また学校の一員として、いっしょに演技する喜びを感じながら、一人一人が最高の演技ができたことに大変満足しています。



校長 寺岡 成希